



## ピースあいち開館1周年記念・企画

# 特別展「沖縄から戦争と平和を考える」開催!

ピースあいち開館1周年記念の企画として、「沖縄から戦争と平和を考える」というテーマで企画展を開催しようという構想が昨年6月の第1回展示検討委員会で、提起され、1年近い準備を経て、去る4月29日から6月28日までの2ヵ月間、3階展示室で開催された。



まず、琉球王国時代から今日までの沖縄の歴史や今も沖縄が抱えている問題を学習するために、NPO会員のほかボランティアからメンバーを募り、資料館の展示作成に当初から携わっていただいている南守夫先生、丸山豊先生、西形久司先生のほか、今回は沖縄に関係の深い名古屋市立大学の阪井芳貴先生にも参画していただき、セミナーを開催した。

9月から12月までの4ヵ月間、月2回土曜日の午後には、講師として前出の阪井先生、南先生のほか浅見裕子氏(写真家)、石原昌秀先生(沖縄国際大学)、森英樹先生(名古屋大学元副総長)をお迎えして、幅広い視点から学び、メンバーによる自由討議も行った。また2月にはメンバー8人による沖縄訪問調査(ニュース第3号参照)も行い、「沖縄」に関する認識を深めた。

テーマは大きく第1展示「沖縄戦の実相とその継承」、第2展示「沖縄の戦後、沖縄の今、そしてこれから…」に分け、それぞれ24枚のパネルにまとめた。このほか南風原文化センターから借用した沖縄戦時の遺品(新垣病院壕などから収集された薬莖、飯盒、軍靴、眼鏡、筆箱など)も展示した。入り口正面には佐喜真美術館から拝借した丸木位里、丸木俊作「沖縄戦の図」レプリカと沖縄展に寄せたメッセージを掲げた。

2ヵ月間の総入場者数は1,236人を数えた。

### メッセージ「沖縄展に寄せて」

あの戦争のさなか、住民を巻き込んだ戦場となった沖縄には  
米軍と日本軍、そして巨大な戦争社会に追いつめられ  
愛する者の命に手をかけるまでの極限を強いられた民が  
今なお、その真実を伝えられない苦しみの中にある

さんご礁の海と光あふれる大地の恵みを豊かに受けてきた沖縄は

基地の島となりはてて、60余年

人々の頭上を黒い飛鳥が絶えまなく行き交い

少女の背後を恥すべき者の影が襲う

沖縄展の準備のなかで私たちは知った

私たちがいかに沖縄のことを知らないかを

沖縄戦の悲劇の上に60年を超えて積み重ねられた

その苦しみと痛みがいかに無関心であったかを

(中略)

沖縄展をとおして私たちは問おう

戦中も戦後も沖縄を犠牲にしてきた私たちの政府と

そのことに無関心な私たち自身の日々を

自分の街に軍用機が飛ばなければよいとする私たち自身を

(中略)

沖縄展をとおして私たちは探そう

沖縄から基地をなくす道筋を

日本から基地をなくす道筋を

それは世界平和への道筋でもある

## 開館一周年記念企画展開催!

平成20年4月29日(火・祝)、この日から6月28日(土)までの2カ月間にわたって、開館一周年を記念しての特別展が開幕した。この日は快晴。10時過ぎから人々が集まってきていた。用意した60の席はまたたく間に埋まっていった。

開会のセレモニーまでの間、日本の童謡や唱歌の幾つかがピアノで演奏された。ピアニストは、このあとミニ・コンサートの伴奏を務める井上律子さん。定刻の10時15分、NPOメンバーの竹川日出男さんの司会で開会のセレモニーが始められた。野間美喜子館長がにこやかな表情で、この1年の回顧とこれからの運動の重要性を語った(別掲)。



古田律子さんたちによるミニ・コンサート

このあと、ミニ・コンサートが開かれた。歌い手は、沖縄出身で名古屋在住の古田律子さん。井上律子さんのピアノとジンジンさんの三線の伴奏で沖縄の唄が披露された。「おばあ唄」「芭蕉布」「島唄」、そして沖縄の方言に直した賛美歌の「天に宝を」の4曲である。玄関前のミニ広場では、臨時の屋台店が作られ、沖縄の名産品が売られていた。

## 多くの方々に支えられて

— 野間美喜子館長の挨拶 —

「ピースあいち」がオープンして一年が経ちました。多くの方がお祝いに駆けつけてくださり、ありがとうございます。スタッフ一同にとって、この1年は大切な1年でありました。すべてのことが初めての体験なので右往左往しながら、ここまで辿りつくことができました。馴れないスタッフを支えて下さったボランティアの皆さん、会員の皆さん、そして支援者の皆さん、本当にありがとうございました。

こうして1年が過ぎて気がつく、この「ピースあいち」は一つの家であり、そこに关わる人たちは一つの家族のようになっていました。1年間の来館者は1万2千人を数えます。いろんなグループにも来ていただきました。県内はもとより三重県、岐阜県からも来ていただきました。催し物も盛り沢山にやってきました。こうした催し物は、特定の人が音頭をとってやったものではなく、多くの人がそれぞれの得意分野の企画を持ち込んで開催して下さいました。

私たちにとって、この建物が平和を愛する人々の自由な交流の場になることが大きな夢でしたが、それが実現しつつあります。多くの企画をとおして新しい出会いがあり、「ピースあいち」の運動の輪をさらに広げることができました。



今日から「沖縄から戦争と平和を考える」というテーマで様々なイベントが予定されています。戦争と平和の問題を考えると、「沖縄」のことは大変重要なのですが、2階の常設展ではスペースを十分に取ることができませんでした。このたびは、沖縄をテーマに真正面から取り組みたいと考えました。私たちは沖縄のことに余りにも知りません。憲法9条の改訂の動きがある中で、沖縄戦のこと、沖縄の基地問題を考えることは極めて大切なことと思います。私たちは沖縄の現実を自分たちのこととしてとらえ、約10ヵ月をかけて学習を重ねてまいりました。

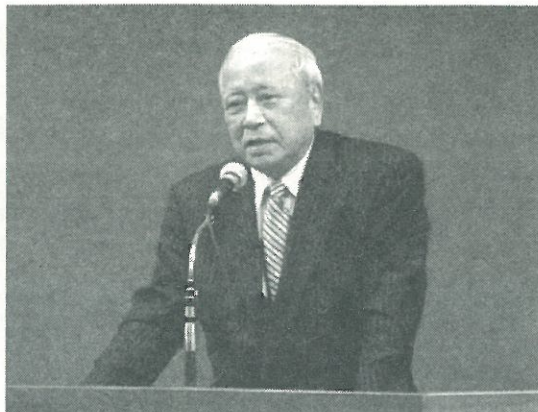
今日から2年目に入ります。一同、決意を新たにしているところです。この企画展に多くの来館者があることを願い、私の挨拶とさせていただきます。

戦争と平和の資料館ピースあいち 開館一周年記念講演(要約)

## 「沖縄戦と基地問題を考える」

大田 昌秀

— 5月29日(木) 名東文化小劇場ホール



大田昌秀 1925年沖縄県久米島生まれ。1945年沖縄師範学校に在学中、鉄血勤皇隊の一員として沖縄戦に動員され、九死に一生を得て生還。元沖縄県知事、前社民党参議院議員。現在、大田平和総合研究所主宰。

### ■集団自決と普天間基地問題

私は沖縄戦のとき沖縄師範学校の生徒で、三八式歩兵銃と120発の銃弾を持ち、手榴弾2個を腰に結わえ付けて戦場に送り込まれました。負け戦の無残な戦場で、どうしてこういうことになったのか、ずっと考えていました。戦争が終わったらぜひともその原因を調べたいと強く思い、以来ずっと沖縄戦の研究をしています。

沖縄の慶良間諸島における集団自決について、教科書検定と絡んで問題になっていますが、私は自決命令があったと認識しています。防衛庁の戦史資料室には沖縄にいた各戦闘部隊の陣中日誌があります。その中に、命令を下す方法として一番目には口頭で、やむを得ない場合には文書でと書いてあります。軍隊が直接民間人に命令を下すことは絶対にあり得ないと言っている人たちもいますが、私などは、守備軍司令部から来た一将校が全校生徒を集めて「今からおまえたちは軍に動員された」ということで戦場に出されました。文書に残っていないから命令がなかったということではないのです。私のクラスメートは125名いましたが、生き残ったのはわずか40名です。

今一つは普天間基地の辺野古への移転問題。これについて、私は到底受け入れることはできないと考えています。実は普天間基地は老朽化していて、建物などはほとんど使い物にならない。そこで再編の名目で代替でなく、基地機能を約20%~25%強化した新しい基地をつくるというわけだからです。

### ■今につながる沖縄の歴史

では、沖縄はどうして日本から切り離され27年間もアメリカの軍事統治下に置かれたのか—。

昭和20年3月26日、米軍は慶良間諸島の阿嘉島に最初に上陸します。そのときに総司令官のニミッツ元帥は、「今日から北緯30度以南の南西諸島における日本の主権を停止し住民を米軍の占領下に置く」と宣言しました。となると鹿児島県の奄美大島も含まれるので、私はその意味を探るために米国の公文書館に通い、5年目に国務長官が議会で証言した文書を見つけました。それは要するに、北緯30度は大和民族と琉球民族の境目の線だと言っているんですね。また1943年にカイロ会談で戦後日本の領土問題が話し合われ、「日本が暴力で奪い取ったすべての地域から日本の主権が排除される」とされました。米国や他の国々は、沖縄は日本が暴力で取ったところだと見たわ

けです。琉球王国は武器のない地域として知られていましたが、明治政府は琉球処分の際に2万坪の土地を農民から強制的に取り上げ、そこに軍隊を置いた。これが沖縄の軍事基地化の始まりです。

連合国の日本占領目的は日本の完全な非武装化でした。その手段として民主化、改憲という形をとったわけです。また二度と再び日本がアジア侵略をすることのないように、アジア侵略の踏み台になった沖縄を日本から切り離して非軍事化し、国際機関でチェックすべきだと話し合いました。ところが結局、マッカーサーが当初の方針を変えて沖縄に軍隊が置くことを決めた。日本を恒久的に非軍事化し、日本の民主化を担保するものとして、沖縄を軍事基地化したわけです。

### ■沖縄の実態を理解してほしい

今日、日本の領土面積のわずか0.6%の沖縄に在日米軍施設の75%が集中しています。それが多くの国民に理解されていない。その根底には、異なった歴史的な背景から沖縄の人は異質の存在だという思いがある。日本の政治は多数決原理ですべて決まります。ところが沖縄代表は11名。だから本土の国会議員が沖縄問題を自分の問題として取り組まない限り、沖縄は民主主義の名の下に永久に基地化される恐れがある。一人でも多くの方に沖縄の実態を理解していただけたら、難題の解決は早まると思いますが、そうもいかない。

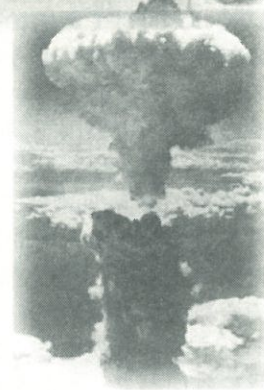
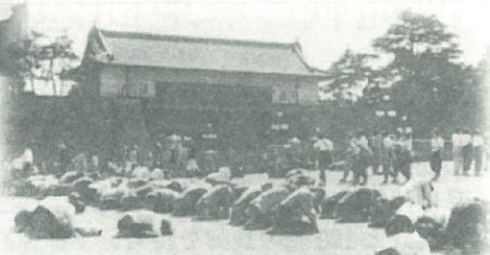
ある意味、私は沖縄問題の解決については失望していました。けれども、昨日、今日と「ピースあいち」の展示を見せていただき、ボランティアの方々が一生涯懸命に沖縄のことを理解して自分たちの問題として考えよう、力を貸そうとしてくださっていることに、本当に胸を打たれました。私自身、沖縄に帰って、似たような組織を是非つくりたいと思うほど感動しました。

何とぞこれまで以上に、沖縄のためにお力をお貸しいただけるよう願って止みません。

# 私の八月十五日



この国での戦争が終わって63年。戦争を知らない世代が国民の半数を超えた。シベリア抑留の収容所で歌われていた「異国の丘」という望郷の歌や平和を願う「長崎の鐘」といった歌も歌われなくなった。こうしたなかで、当館のボランティアの方々に終戦時や戦後の思い出を、それぞれ一筆ずつ寄せていただいた。



その日、嗚咽が  
広がった

阿部 孝子

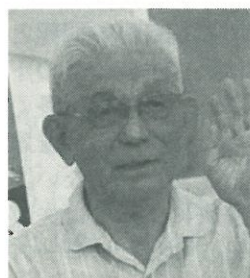
“あの日”私は学校の講堂で玉音放送を聞いていた。放送が終わっても生徒たちはピンとこない。突然先生が顔を覆って号泣した。その涙が感染したかのように上級生がシクシク泣き出した。「戦争に負けたみたいよ」「うそ!」。嗚咽が広がった。十三歳の夏の日。



悲しみと怒りと  
とまどいと

川北 純子

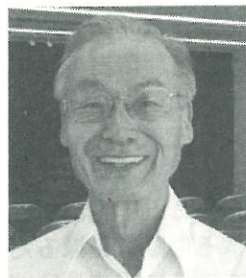
8月15日  
わたしが今を過ごせるのは  
あの8月15日があったおかげ  
悲しみといかりととまどいを  
感じ取れる日です。  
そして、祈りを



生きる希望が湧いた

加藤 清高

不眠不休で暗号の解読に努めていた私は、中国江蘇省海州という地で終戦の日を迎えた。将校は死刑、下士官・兵は重労働だというデマが飛んだが、いずれ日本に帰れるという希望が見えてきた。これまでは死ぬことばかり考えてきたが、生きる喜びが込み上げてきた。



憲法を精読する日

桑原 勝美 (67歳)

母は弟を比島戦で亡くした後、他界するまで47年間苦しみ通した。犠牲と引替えに獲得した平和憲法。故清水寺貫主大西良慶師は「この憲法は経文にしたいほど立派」と説いた。  
8.15は、犠牲になった人々を想い、戦争のない世界を願って、憲法を精読する日である。

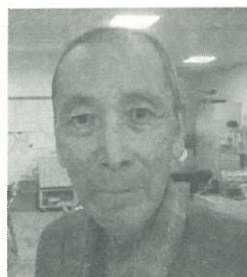


疎開先で聴いた  
荘重な玉音放送

小島 久志  
(当時私立名古屋中学校一年  
在学中)

炎天下疎開先の縁側で聴いた『朕…帝國の  
現状に鑑み…敵は新に残虐なる爆弾を使用…  
堪え難きを堪え忍び難きを忍び…朕が意を體  
せよ』との荘重な玉音放送で敗戦を察知す。

徴用逃れの町工場が収用した蚕部屋のあけ  
渡しを迫られる親父の胸中が今に甦ってくる。

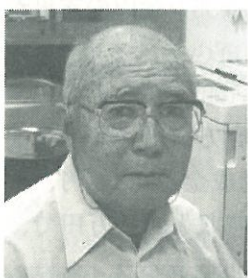


季語を思い出す日

田中 太門

俳句の季語に「敗戦日」がある。いうまで  
もなく八月十五日のことだ。私は昨年の敗戦  
日に開腹手術を受けた。がん摘出のためだ。  
それ以後、私は戦いを終わらせる、戦争をな  
くする「終戦日」を思うようになった。

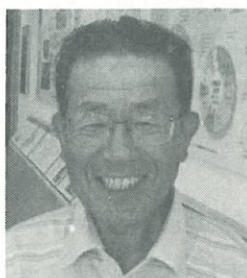
「生かされて 私の 八月十五日」



総天然色の青空

杉村 公男

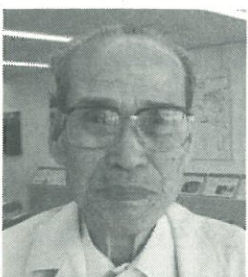
疎開先の国民学校五年生の私は、県道端に  
大豆を蒔いて下校した。敗戦を知り、私はど  
うしてよいのか戸惑った。戦中の記憶は全て  
モノクロだが、何故かこの日だけは炎天の青  
空が、総天然色で鮮明に思い浮かぶ。



叔父の無事を祈る

林 收

岐阜県にある母の実家へ縁故疎開して2年  
目の8月15日、大人たちが動揺する中で、暈  
のかかった太陽を仰ぎ見ました。祖父母は健  
在でしたが、叔父の出征後に叔母が亡くなり、  
孤児同然になった従妹の信ちゃんのために、  
叔父の無事な復員を空に祈った9歳の私でした。



パプアニューギニア  
から生還

杉山 常男

敵の飛行機は毎日定期的にパプアニューギ  
ニアのサルミ上空で、偵察と爆撃の繰り返し  
である。第六飛行師団から「日本軍は連合軍  
の武装解除に応じるように」と命令が出た。

戦争は終わった。アメリカのリバティー船  
で日本に帰った。五月十五日名古屋港で身体  
検査をして十七日、故郷に復員しました。



「終わったな」と  
祖父のひと言

森島 典子

四年生の夏に満州の奉天で終戦の日を迎え、  
正座して玉音放送を聴いた。長い沈黙の後、  
祖父が「終わったな」と、力無く言った。母  
は抛出する金属類を無言で片付けていた。私は、  
夏休み前に行軍をして蒔いた苳麻は誰がその  
種を集めに行くのか、子供心に気になった。

## 多彩な事業を展開した、この1年

「ピースあいち」がオープンして1年が経過した。開館一周年を迎え、5月17日に第6回通常総会が開かれた。昨年の5月4日から本年3月末までの入館者は11,188人を数える。この間の運営経費の支出総額は1101万余円。どのように使われたのか、収支のバランスはどうか、決算書から振り返ってみた。

\*まず**建物の管理**にかかる費用である。水道光熱費が93万余円。8月・12月の冷暖房費が、それぞれ8万円余で大きい。エレベーターの保守点検と警備会社の監視サービスに56万余円。租税公課は、土地の固定資産税41万余円がかかった。(本年度は建物分の77万余円が加わる。)駐車場の費用が19万余円。

\***資料館の運営費**としては、人件費(専従者給与とアルバイト代)が223万余円。開館後の細かい備品費が58万余円かかった。(なお、2階の超大型テレビは、「なんでも貸します」の近藤産興から無償で頂いた。)

文書の外注印刷費が128万余円。これは、『ピースあいちニュース』2回分の印刷費と、展示ガイドやイベントの宣伝チラシなどの経費で、いずれも必要なものばかりである。印刷費を抑えるために、短期のイベントのチラシなどは、館の印刷輪転機で手作りしている。それでも1ヵ月1万枚は超える。この印刷にかかるインク代、紙代などは、消耗品費(事務用品費を含む)115万余円の中に計上されている。また、会員への連絡や広報のための郵送代、電話料金などの通信費は83万余円かかった。

\***催事費**は59万余円、オープニング企画をはじめ「ハンナのかばん展」、「青い目の人形展」など特別展関係が7回、講演会、朗読の会、ミニコンサート、映画会などが17回ある。その他、助成金枠の特別費112万円余から、催事関係の講演料や

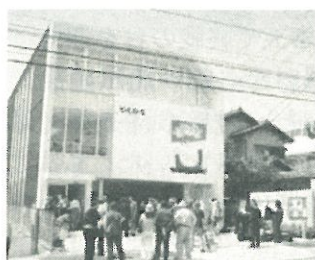
パネル制作費、DVD製作費などが支出されている。

\***この他の支出**としては、旅費・交通費が9万余円、新聞図書費が6万余円。雑費47万余円。雑費には、受取人払いの振り込み手数料(会費やカンパの振り込み料)、ダスキンのモップ・マット代、NPOに関する登記料など細かいものが含まれる。

ほかに、会計事務所への支払が10万余円、開館前の引越費用として荷造梱包費35万余円の支出があった。

\*ここで**収入**の方をみると、入館料が314万余円、正会員・賛助会員の会費が249万余円。イベントの収入が62万余円、事業の助成金が123万円、寄付金やカンパが480万余円、雑収入が15万円で、総収入額は1245万余円。単年度収支バランスは、減価償却費を除外して考えると143万余円の黒字になった。しかし、これは、寄付金収入が、開館時の特別寄付を含め全収入の38パーセントも占めている結果で、これは毎年期待できるものではない。1万人を超える来館者収入も2年目はそこまでは望めないだろう。そのため本年度は収支総額を988万円とする緊縮予算を組んだ。今年も、経費を切りつめながら活動は活発にという難しい運営を迫られる。

現在、会員は、正会員253名、賛助会員326名である。これをそれぞれ500名、1,000名に増やすこと、毎年継続的に1定額(1口1万円)の寄付をしていただく支援者・支援団体を本格的に募っていくことが今年の大きな課題である。



ピースあいちオープン



青い目の人形展



総会



一周年記念イベント



## 2008年前半のイベント企画

### 4月14日～28日

2008年度のイベントは、開館1周年企画のテーマ「沖縄」のプレ企画、浅見裕子写真展「美ら海を守る人々」でスタートしました。青い空と海をバックに「暴力なき戦い」を続ける沖縄の人々や、日本中から集まる支援者が力強く、美しく写しだされ、「どうして軍隊に入ったの?」という問いかけに、まぶしそうな目で答える若い米兵の写真が印象的でした。4月21日には浅見さんの講演会もありました。

### 4月29日～6月28日

特別展示「沖縄から戦争と平和を考える」には1200名以上の来場がありました。展示の準備をしてきたメンバーの想いをこめた「沖縄展メッセージ」に共感の声が寄せられ、皆さん熱心に見学して下さいました。記述が多い、読みにくいとの意見もありましたが、「よくここまで調査し、まとめた」と好評のアンケートも多くいただきました。また沖縄への修学旅行を控えた生徒の皆さんの事前学習にも利用されました。

- ・4月29日にはオープニングセレモニーが行われ、古田律子さんのミニコンサートはすばらしい歌声で満員の観客を魅了しました。
- ・5月3日の閉館後には、名古屋二期会アンサンブル研究会の主催で総勢9名出演のクラシックコンサート。石黒廣城さんの「マンマ」や夏目久子さんの「さとうきび畑」など、平和への祈りをこめた歌声に酔いしれました。
- ・5月15日「沖縄復帰の日」には、この地方で沖縄復帰運動にかかわった人の話を聞く会、6月6日には大島康彦さん、山田陽子さんお二人のアナウンサーによる「沖縄戦手記朗読会」、6月14日には愛工大教授比嘉俊太郎さんによる「沖縄戦体験を聞く会」、6月23日「沖縄慰霊の日」には映像上映会・絵本読み聞かせと、イベントが続きました。この4つのイベントは、特別展

示にもご協力をいただいた名市大教授阪井芳貴さんの企画によるもので、準備・司会・解説まで本当にお世話になりました。マスコミも応援してくださって、多くの参加者がありました。

- ・5月29日には、天野鎮雄さんの司会で前沖縄県知事大田昌秀さんの講演のほか、大城節子さんほかによる沖縄民謡が演奏されました。



浅見裕子さん  
講演会  
(4月21日)



名古屋二期会  
アンサンブル研究会  
コンサート  
(5月3日)



原ゆうみ  
ピアノコンサート  
(4月14日)



天野鎮雄朗読会  
久米正雄を詠む  
(7月4日)

### これからの夏の企画

- ・金城中・高校生による発表展示「15歳の語り 継ぐ戦争 わたしの聞いた戦争見た広島」
- ・7月16日～8月9日「ヒロシマ/ナガサキ 原爆ポスターパネル展」
- ・8月12日～30日「絵で見る学童疎開展」

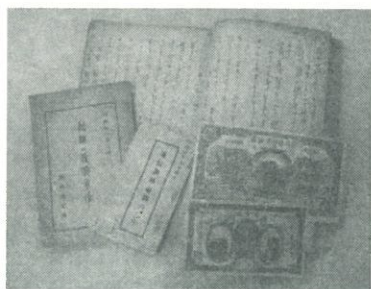
- ・8月2日～16日「戦争体験を聞く会」
- ・8月29日「イラク帰還兵アッシュ・ウールソン君講演会」

などを予定しています。皆様のご来館をお待ちしています。

なお、8月31日から9月8日は夏期休館とさせていただきます。

## 寄贈資料について

今年に入ってからも、戦争に関する品の寄贈を受け付けています。



「父親が亡くなり、もう家の中に置くところがなくなったので」と、遺品を持ってきた人。「戦争に関わる遺品は、もう、この人の家では必要ないのか」と思うと、戦争が終わって60有余年という歳月の長さを感じます。一方で、父親の日記などを手がかりに、父親の軍隊が中国のどの地方をどんな経路で移動したのかを克明に記した手作りの地図を遺品共々寄贈してくださった人もいます。

共通して話されることは、「生前にもっときちんと戦争体験を聴いておくべきだった」という思いです。

その他、戦争体験をまとめた小冊子、戦前の教科書等、戦争に関わる書籍等の寄贈もありました。

## 「国際平和ミュージアム」に行ってきました！

3月から月1回、ボランティアガイド養成講座・ボランティアのための勉強会を行っています。



4つの展示内容別に各テーマ2回、10月までの予定。毎回、多くのボランティアが熱心に参加し、貴重な学びあいの場になっています。

6月8日には、立命館大学国際平和ミュージアムのボランティアの方々と交流し、ガイドについて勉強するバスツアーに行きました。7つの班に分かれ、各班2名のボランティアガイドについていただき、館内を見学。皆さんの知識の豊富さと戦争と平和について語り伝えたいという熱い気持ちに感心することしきりでした。

国際平和ミュージアムの皆さん、ありがとうございました！これからの「ピースあいち」のガイドに役立てていきたいと思ひます。

### ピースあいちの運営を支えてください。

ピースあいちの運営資金は、正会員・賛助会員の会費収入と寄付金によってまかなわれています。

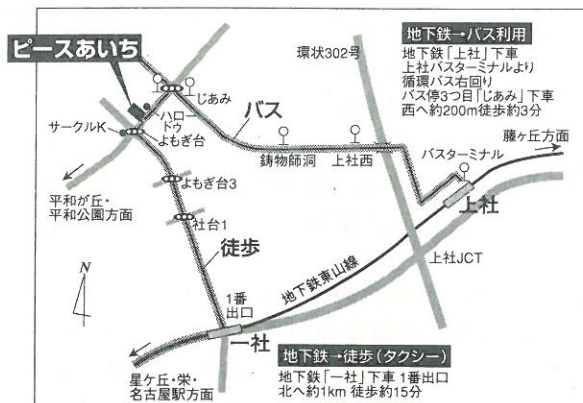
ぜひ会員になって、一緒に「ピースあいち」を支えてください。

○正会員は無料バスの特典

\*お申込みは郵便振り込み用紙で、またはピースあいちにて直接お申し込み下さい。

\*法人向けには、「ピースあいち支援団体」になっていただき、毎年一定額（10口1万円）のご寄付をお願いしています。

### 「ピースあいち」への交通のご案内



### 【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 閲覧料を頂くのは、2階の展示室です。1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書のライブラリーがありますが、無料でご自由に閲覧できます。
- 団体やグループ、学校などの見学会で開館時外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。
- 駐車場がありませんので、公共交通機関でおいで下さい。
- 夏期休館 8月31日(日)～9月8日(月)

### ●編集後記●

文部科学省は、2011年度から完全実施される小学校社会科の「新学習指導要領」の解説書に太平洋戦争時における国内の被害の模様を明記することにした。小学校6年の「新編新しい社会」(上)には、「国内各地の空襲の被害」「沖縄戦」「広島・長崎への原子爆弾の投下」の模様が記載されているが、授業の指針となる解説書に明示されることで、日本各地での被害の説明がきめ細かく丁寧に行われる学校が増えそうだ。

戦争が終わっても、日本国内にはアメリカの軍事基地がある。沖縄本島面積の19%を米軍基地が占めている。日本に駐留する米軍基地の約75%が沖縄県に集中している。沖縄から米軍基地がなくなる限り、沖縄の戦後は終わらない。(S)